

2013年1月31日

関係各位

野村ホールディングス株式会社

コード番号8604

東証・大証・名証第一部

野村ホールディングス、2013年3月期第3四半期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二)は、本日、2013年3月期第3四半期(2012年10-12月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は3,891億円、税前利益は130億円、同社株主に帰属する当期純利益は201億円となった。

同社のグループCEOの永井浩二は、以下のとおりコメントした。

「第3四半期は、前期に続き3ビジネス部門すべてが税前黒字を計上するとともに、日本、米州、欧州、アジアの全地域で税前黒字を達成した。3部門の合計税前利益は前四半期の約4.6倍となり、グループ全体の税前利益で5四半期連続の黒字となった。営業部門は、コンサルティング営業に引き続き注力し、株式・投信を中心に総募集買付額が今年度最高となるなど、グループ全体の利益に貢献した。アセット・マネジメント部門は、継続して適切なコスト管理に努める中、運用資産残高が順調に増加し、安定的な利益水準を維持することができた。ホールセール部門は、収益水準が回復する一方で着実にコスト削減を進め、税前利益で部門として2010年3月期第3四半期以来の高水準を達成した。特にフィクスト・インカムが全体の収益を牽引した。当社は、「アジアに立脚したグローバル金融サービス・グループ」として、今後も国内外のお客さまに付加価値の高いソリューションを提供し、社会の発展に貢献していく。」

当四半期決算のポイント

当四半期決算のハイライトは以下のとおり。

	2013年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,891億円	△3%	△4%
税前利益	130億円	△63%	△62%
純利益	201億円	7.2X	+13%

- 当四半期の収益合計(金融費用控除後)は 3,891 億円(前四半期比 3%減、前年同期比 4%減)であった。各ビジネス部門が市場環境の好転をとらえ、3 ビジネス・セグメントは前四半期比大幅な増収であったが、「その他」セグメントに含まれる野村土地建物に関連する連結会社の収益が前四半期比 16%の減収であったこと、また、自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する 232 億円の損失を計上したため、全社ベースでは若干の減収となった。
 - 連結会社の変動持分事業体^(※)を通して保有する不動産を中心に、241 億円の評価損が金融費用以外の費用に含まれる影響により、税前利益は 130 億円となった。ただし、この不動産評価損 241 億円の大部分は非支配持分等で差し引かれるため、当期純利益への影響額は-21 億円であり、当期純利益は 201 億円となった。
- ※ 議決権の過半を保有することによる支配はないものの、以下の要件を満たす事業体:①当該変動持分事業体の最も重要な活動を支配するパワーを有し、②利益を享受する権利または損失を負担する義務が重要と判定される持分を有し、③受託者として他の受益者のために行動していない事業体。
- 営業部門では、市場環境の好転を受けて投資家のリスク許容度が向上し、株式・投信を中心に募集買付が好調であった。
 - アセット・マネジメント部門も、投資環境の改善と資金流入により運用資産残高が拡大し、税前利益が大幅に増加した。

- ホールセール部門は、全てのビジネスライン・海外地域が増収となり、部門の税前利益は2010年3月期第3四半期以来の高水準であった。
- 2012年12月末における速報値(バーゼル2.5ベース)で、自己資本比率は19.3%、Tier 1比率は16.9%。2012年12月末現在のB/Sの資産合計は38.6兆円、株主資本は2.2兆円、グロスレバレッジは17.8倍、調整後レバレッジは11.6倍である。

当四半期の各部門の状況

- 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は前四半期比18%増の957億円、税前利益は前四半期比85%増の203億円であった。

12月以降の市場環境の好転により投資家のリスク許容度が向上し、株式・投資信託を中心に総募集買付額が23%増加した。幅広い商品ラインアップとコンサルティング営業の継続により、顧客資産も3,605億円の純増となった。

	2013年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	95.7	+18%	+20%
税前利益	20.3	+85%	+101%

- アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門は、運用パフォーマンスに連動した成功報酬も部門業績に貢献し、収益合計(金融費用控除後)は前四半期比22%増の188億円、税前利益は前四半期比60%増の73億円と、2012年3月期第1四半期以来の高水準となった。

投資信託ビジネスでは、多様な顧客ニーズに応えた商品提供と販売支援を継続することで、資金流入が継続した。投資顧問ビジネスでは、顧客ニーズにマッチした多用な運用プロダクトを通じて資金を獲得した。投資環境の改善と資金流入により、ネットの運用資産残高は2.4兆円増の25.1兆円となった。

	2013年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	18.8	+22%	+23%
税前利益	7.3	+60%	+72%

● ホールセール部門

ホールセール部門は全ビジネスライン、海外各地域が前四半期比増収となり、収益合計(金融費用控除後)は前四半期比38%増の1,890億円、税前利益は499億円と、前四半期から大幅に改善した。

- フィクスト・インカムおよびエクイティの協業を促進し、経営資源の効率的配分を図る目的で2012年12月に「グローバル・マーケッツ」を設立した。これにより、ホールセール部門は、グローバル・マーケッツ、インベストメント・バンキングの2つのビジネス部門となる。
- ✓ フィクスト・インカムは、各プロダクト、各地域がバランスよく収益に貢献し、2010年3月期第1四半期以降で最大の四半期収益を計上した。堅調な顧客フローに加え、トレーディング収益も増加している。
- ✓ エクイティは、当四半期末にかけてボラティリティや株価指数の上昇など市場環境が改善し、トレーディング収益が全地域で回復した。デリバティブ・ビジネスも大幅に復調した。2012年9月に発表したエクイティ・ビジネスのグローバルな再編は計画どおりに進捗している。
- インベストメント・バンキングは、日本でREITを中心にECMビジネスが収益に貢献した。日本以外の地域においても全地域で前四半期に比べて増収となり、特に米州では2011年のビジネス再構築以降で最大の四半期収益を計上した。リーグテーブルでは日本のECM、M&Aおよびサムライ債で1位^(※)、グローバルM&Aで9位^(※)になるなど、地域間の連携も進んでいる。

※ 出所:トムソン・ロイター

	2013年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	189.0	+38%	+8%
税前利益	44.4	230X	+20%

以上

詳細につきましては、当社ホームページ (<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>) にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(1月31日)午後6時30分より、決算説明テレフォン・カンファレンスを開催する予定です。この模様は、当社ホームページ (<http://www.nomura.com/jp/>) を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2013年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2013年1月31日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますので、ご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますので、ご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。